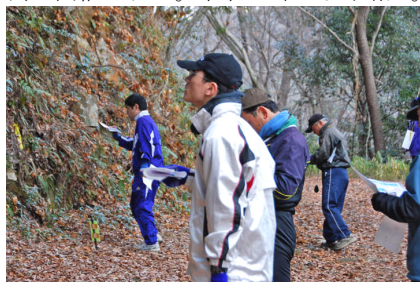




地図と現地の対応をこれでもかというくらいシビアに求めるトレイルオリエンテーリング(トレイル0)。その世界選手権選手選考対象大会の1つ、愛知 OLC 大会が、去る1月16日、愛知県春日井市の春日井少年自然の家周辺を舞台に開催された。

## ■今年も開催、愛知 OLC■

いまや世界屈指のトレイル0 強国、日本。しかし、国内競技会は数えるほどしかない。そんな中、毎年この時期にトレイル0の競技機会を提供してくれる愛知 OLC 大会は貴重だ。今年も去る1月16日(土)~17日(日)、愛知県春日井市の春日井少年自然の家を舞台に、平成21年度愛知オリエンテーリング大会が開催された。今年は雪でなく晴天。



競技の様子・11番コントロール付近  
地図と現地の対応を行う選手たち  
(上林弘敏さん撮影)

## ■まずは timed control■

1分という制限時間を課し地図と現地を対応させる対応速度を競うのが timed control(タイムコントロール、TC)だ。その1つ目、地図には土ガケと岩ガケが描かれている。コントロール位置を示す地図上の円は左側の土ガケに付いている。



課題図の一部(右下方向が磁北)

前方を見ると、コントロールフラッグは5つ。さあ競技開始だ。

前方に向かって下っている斜面だからガケののり面は見えない。眼前に見えている地面のどこが土ガケの上部かは、そのあたりだけ見ても良くわからない。A(向かって一番左端に見える)フラッグのさらに左側がややへこんでいて、地図に描かれてる補助コンターの沢のようだ。じゃあ、そのちょっと右側にあるAが正解か。

残念、正解はBだった。



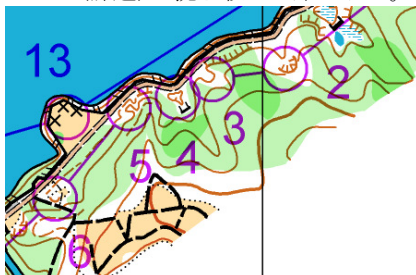
TC1  
正解図から

aの左に地面のへこみがあり、筆者はそれをaの補助コンターの沢と勘違い。

このあと、同一フラッグを使ってのTC2があり、難度が高いものであった。

## ■微妙な等高線表現に挑む■

TC2も終え、地図受け渡し場所で地図を受け取り、いよいよレースのスタート。今大会では100分、14個のコントロール(課題)に挑む戦いの始まりだ。



Aクラスコース図の一部

道沿いに適度な斜面の林が連続するエリアにコースが組まれている。等高線が表現する現地の様子を正確に把握する課題が多い。互いに2m程度しか離れていないフラッグのうちのどれが円の中心なのか判断していく。

通常のナビゲーションでは、そんなわずかな違いを見分ける精度は必要ない。目的地の2m横に着いてもきっとその目的地は視認できるだろうし、途中の通過点が2mずれただけなら多分問題にならない。でもそこはトレイル0。地図と現地を良く観察してその違いを判断する。今回も、そのわずかな差異を見分ける能力を競いあった。

## ■日本代表のゆくえは?■

愛知 OLC 大会を終え、2010年夏の世界トレイル0選手権(WTOC、Norwayで開催)の選手選考対象大会も残り1つとなった。最後は3月21日の全日本トレイル0選手権。そこでの勝者と、選手選考対象大会ポイント1位、そして選考委員による推薦選手の3名が日本代表となる。その3名にパラリンピッククラスの選手を加えた最大6名が世界の舞台で闘うことになる。手元の集計では、現時点で選考ポイントのトップを走るのは鈴木規弘選手(多摩OL)だ。

昨年は木村治雄選手の銅メダル獲得に沸いた日本トレイル0陣。今年は果たしてだれが世界の舞台へ闘いに行くのか。そしてその先の栄光をつかむのはだれか。

注: 代表選考に関する記述は筆者手元の集計です。正式には、日本オリエンテーリング協会トレイル0委員会の発表を正として下さい。

## 愛知 OLC 大会成績

### Aクラス(16点満点)

1	鈴木規弘	多摩 OL	15点 72秒
2	田中 徹	京葉 OLC	15点 76秒
3	山口拓也	浜松 OLC	15点 91秒
3	今井信親	ワンダラーズ	15点 91秒

### Bクラス(10点満点)

1	杉森憲文	ファミリー-OLC	10点
1	富田昭則		10点
3	野田良雄	中京 OC	9点
3	岡田国彦	愛知 OLC	9点

### Nクラス(10点満点)

1	武井 清美	W 豆	7点
---	-------	-----	----

### OAクラス(16点満点)

1	大平晃久	ルーパー	12点 71秒
2	小椋浩吉		4点 133秒



Aクラス上位入賞選手たち  
(上林弘敏さん撮影)

(田代 雅之 記)